



3年学年だより

発行日：令和3年 1月 29日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：三浦 昌彦 NO. 8

新しい年を迎えて ～人とのかかわりを大切に～

校長代理 白田 淳子

「新たな年がスタートしました。2020年はオリンピック・パラリンピックイヤーです。また令和になって初めての新年、干支の最初の子年ということで、いろいろなことが新しく始まるようなワクワクした年明けとなりました。」今年のこの学年だよりの書き出しです。この時に、2020年のこの社会の変化を、誰が予想できたでしょうか。それでも時間は刻々と進んでいきます。2021年の年明けを迎えました。南高附属中は開校10年目となり、4月には10期生を迎えることとなります。現在、神奈川県には緊急事態宣言が発令中であり、先行きが見えない状況ですが、そのような中でも、良い伝統や特色を生かしつつ、新しい社会の動きに対応できるようにチャレンジを続けていこうと思います。中高6年間の一貫した教育をさらに深めていくよう努力してまいりますので、これからもご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、終業式でみなさんに「命が一番大事」と「価値を見出し、前向きに」を大事にしてほしいというお話をしました。誰にとっても今の状況は、苦しく、おもしろくないと思います。文句や愚痴を言って、うまくいかない理由をコロナのせいにして、投げやりな気分ですら何でもいいやと落ち込むのは簡単です。そんな中だからこそ、自分ができること、今だからやれることを見つけてみてはどうでしょうかと提案しました。年の初めにあって、やってみようと思うことは見つかりましたか。どうせなら、前向きに、いつもならできないことにチャレンジしてみてください。

開校当初から行われている「校長代理面談」を、昨年12月に1年生全員と行いました。最初に、「この学校に進学して、よかったと思うことは何ですか。」と質問しました。大部分の生徒が、「先生やクラスメイトがすばらしい。話を聞いてくれるし、話が合う。」と答えてくれました。そんな素敵な人たちに囲まれて、自分はこの1年どう過ごしてきたでしょうか。自分勝手な判断で、相手に嫌な思いをさせてしまったことはないでしょうか。逆に、周りの人から、傷つけられて、心にダメージを受けたことはなかったですか。どんなに優しい人でも、自分と違う人間ですから、傷つけようと思わなくても、意見が対立することだってあるはず。思う通りにはなりません。それでも、私はみなさんに「**人とかわる**」ことをおそれないでほしいと思うのです。

本校はコミュニケーションを大事にしています。コロナ感染予防のため、物理的な距離はとらなくてはいけませんが、心は接近してほしいです。せっかくこんな素敵な人たちがたくさんいる環境で生活できるのですから、人との関係の中でたくさんのお話を学んでください。

今年の生徒のいない3か月は学校が暗く静まり返っていました。こんな状況でも、生徒や先生が関わりあうからこそ、学校の存在意義があると思います。人生の中で、心と体が一番成長する時期のみなさんと、ともに過ごせることを幸せに思います。



卒業研究発表会

1月23日(土)、3年間のEGG学習の集大成である卒業研究の発表会が行われました。1～2年生では、個人新聞やミニ論文、パワーポイントを使った学校紹介などの取り組みを通して、調査方法やそれをわかりやすく伝えるためのスキルを学びました。3年生では、自分の興味のあることについて調査や研究をし、「世界を幸せにする第一歩」として自分なりの解決策を考えたり、提案をしたりしました。



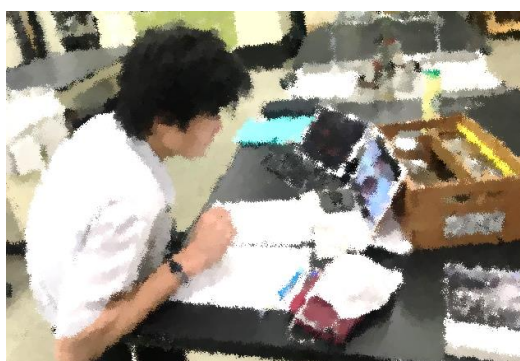
当日は、コロナ禍の影響で保護者の方の参観はできませんでしたが、聴講した2年生はメモを取りながら、真剣に発表を聞いていました。



3組の■■■■さんは、公害の一つになっている「騒音トラブル」解決のために、新聞紙や段ボール、気泡緩衝材などの身近な物を使って防音の効果を検証し、実験した中では、アクリル板の防音効果が最も高いという結果を導き出しました。

感染症について調べた2組の■■■■さんは、「江戸時代から学ぶ感染症対策」というタイトルで、医療技術がさほど進んでいない時代に、どのような対策が取られたのかを調べ、現代に生かせることを考えました。当時は幕府から給付金(米)や漢方薬などが配布されましたが、現代より速やかに行われたそうです。また、アマビエを信仰したり、天然痘のワクチンが導入されたのもこの時代でした。研究を通して、一人ひとりの行動や意識を変えること、そしてワクチン開発の重要性が改めてわかりました。

4組の■■■■さんは、昨今規模が大きくなり、被害が甚大になっている台風を消す方法について可能性を探りました。「消す」ことは無理でも「海水攪拌(かくはん)」や「気圧を上げる」など、実現の可能性があるものを提案しました。コロナ禍で直接取材ができない中、パソコンのzoom機能を使って、大学教授にご意見をいただきました。



今年度は卒業研究に取り組む期間も短く、現地に赴いて調査や取材をするのは難しい状況でもありました。メールでのやりとりやホームページを閲覧したりするなど、新しい様式で卒業研究に取り組み、しっかりと発表することができました。

★保護者の皆さまへ

卒業研究の発表の様子を、一人ひとり撮影いたしました。データをご希望の方は、USBをお持ちいただければ、準備ができ次第、コピーしてお渡しいたします。

校内書き初め展 ～新春に清々しい光景～

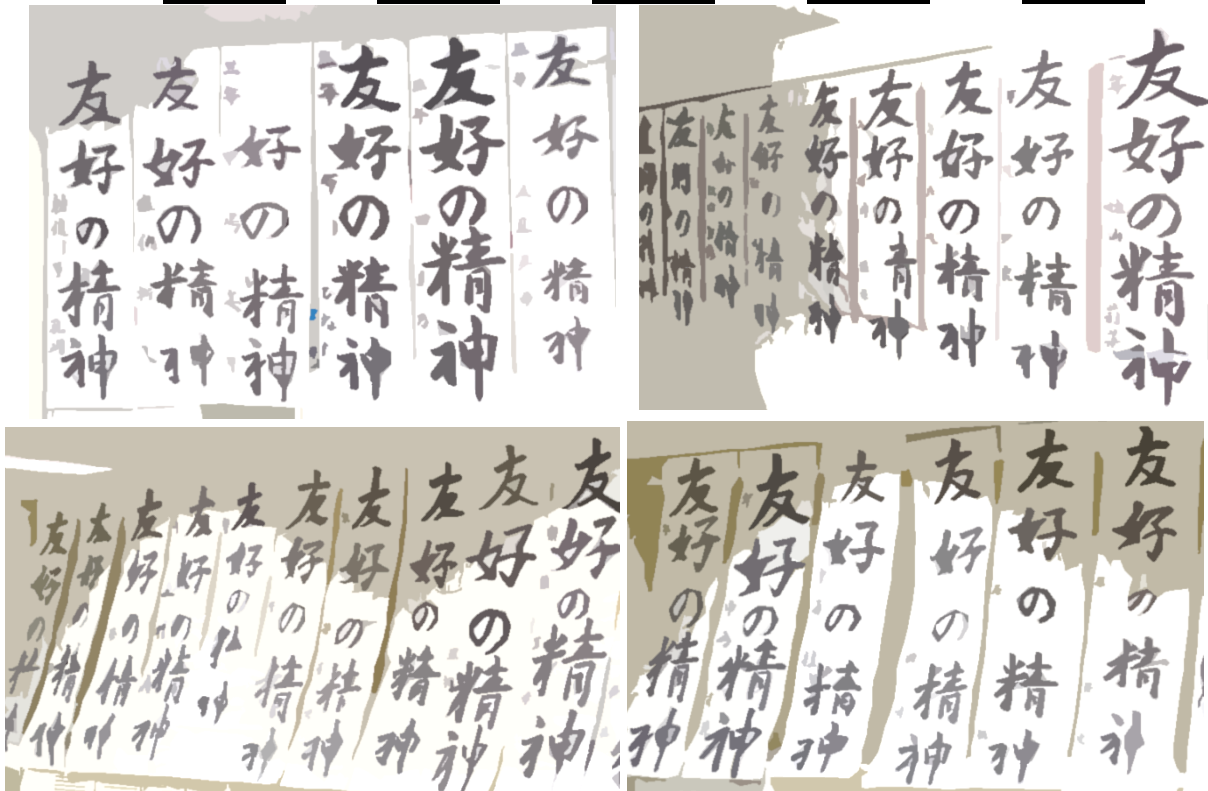
今年も全校で一斉に校内書き初め展が行われました。

書き初めは、日本の伝統的文化の一つで、年が明けて初めて毛筆で書や絵を書く行事のことです。「吉書（きっしょ）」「試筆（しひつ）」「初硯（はつすずり）」とも言います。

1月2日に「若水（わかみず）＝縁起を祝って元日の朝早く井戸から汲む水」で墨をすり、一年の願いや決心、抱負などを書きます。もともと宮中の行事でしたが、江戸時代以降、庶民にも広まりました。書き初めで書いた作品を、1月15日に「どんど焼き＝青竹を立てて正月の飾り物を燃やす行事」で燃やし、その炎が高く上がると、字が上達するといわれました。

今年の3年生の課題は「友好の精神」。のびのびとした流れのある力強い文字が並んでいます。

金賞 1組： ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、
■■■■さん
2組： ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん
3組： ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん
4組： ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん、 ■■■■さん



姫のひとりごと

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、楽しみに準備をしてきた「関西研修旅行」が中止になりました。断腸の思いでしたが、皆さんは現状を踏まえ、冷静に受け止めてくれていた様子でした。変化に順応できるしなやかさと、ぶれることのない芯の強さに、改めて成長を感じました。卒業までの毎日を、仲間とともに大切に過ごしていきましょう。

【中学事務より】

令和2年度就学援助の申請が締め切りになります。今年度申請していない方で、ご希望の場合は、2月末までに中学事務までご連絡をお願いいたします。